

実務経験のある教員による授業科目一覧表

[部門：海洋生命科学部 海洋生命科学科]

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験者)	開講学年	通年前期 後期	単位数	必修・ 選択等
1 海洋生命 科学概論	<p>【三宅 裕志】 水族館や深海研究機関でさまざまな無脊椎動物の分類や生態研究をおこなってきた経験を活かして授業を行っている。</p> <p>【山口 峰生】 水産関係の国立研究開発法人での実務経験を活かして、海洋における生物生産の特徴を理解し水産資源水準の維持・向上に向けた具体的方策を考えるために必要な経験知を伝えるような授業を行っている。</p> <p>【難波 信由】 企業研究所でのさまざまな生物を対象とした生理・生態学的研究に関する実務経験を活かして、基礎生産者が果たす役割を、学生が具体的に理解できるような授業を行っている。</p> <p>【千葉 洋明】 養鰻業および養殖魚の機能的餌料の開発を通して得た実務経験をもとに、知識のみならず現場の雰囲気が理解できるよう、視覚的な資料を積極的に活用している。</p> <p>【朝日田 卓】 漁場調査や種苗生産現場における経験を通じて得た魚類等の生態や多様性、戦略等の情報（映像を含む）を、学生が実感できるように活用している。</p> <p>【田中丸 真琴】 学生向けキャリア支援経験と企業向けコンサルティング経験を活かして、時代に求められる人材養成を目指した実践型講義を実施する。</p>	菅野 信弘	菅野 信弘 佐藤 繁 奥村 誠一 三宅 裕志 ※ 山口 峰生 ※ 難波 信由 ※ 高橋 明義 天野 勝文 中村 修 森山 俊介 千葉 洋明 ※ 朝日田 卓 ※ 田中丸 真琴 ※	1	前期	2 単位	必修
2 ラーニング・ スキル	<p>【山口 峰生】 国立研究開発法人での実務経験を活かして、レポート作成の基本となるテーマ設定および資料収集に必要な情報の検索法とその評価・整理法を体系的に理解できるような授業を行っている。</p> <p>【田中丸 真琴】 学生向けキャリア支援経験と企業向けコンサルティング経験を活かして、時代に求められる人材養成を目指した実践型講義を実施する。</p>	菅野 信弘	菅野 信弘 山口 峰生 ※ 田中丸 真琴 ※	1	前期	1 単位	必修
3 生物海洋 学	水産関係の国立研究開発法人での実務経験を活かして、水産業の持続的発展を目指すための具体的方策を考えるために必要な経験知を伝えるような授業を行っている。	山口 峰生	山口 峰生 ※	1	後期	2 単位	必修
4 無脊椎動 物学	水族館や深海研究機関でさまざまな無脊椎動物の分類や生態研究をおこなってきた経験を活かして授業を行っている。	三宅 裕志	三宅 裕志 ※ 廣瀬 雅人	2	前期	2 単位	必修
5 魚類学	漁場調査や種苗生産現場における経験を通じて得た魚類等の生態や多様性、戦略等の情報（映像を含む）を、学生が実感できるように活用している。	朝日田 卓	朝日田 卓 ※	2	前期	2 単位	必修
6 生化学	食品企業での経験から、生化学的な知識がどのように食品製造や開発に役立つかを話題として取り上げている。	池田 大介	池田 大介 ※	2	後期	2 単位	必修
7 海洋基礎 生産学	企業研究所でのさまざまな生物を対象とした生理・生態学的研究に関する実務経験を活かして、基礎生産者が果たす役割を、学生が具体的に理解できるような授業を行っている。	難波 信由	難波 信由 ※ 山田雄一郎	2	前期	2 単位	必修
8 発生生物学	アワビの養殖プラント会社での業務経験を活かして、魚介類の養殖に関わる講義をするときに具体的・実践的な話ができる。	奥村 誠一	奥村 誠一 ※ 古川 史也	2	後期	2 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

[部門：海洋生命科学部 海洋生命科学科]

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験者)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
9 遺伝学	アワビの養殖プラント会社での業務経験を活かして、魚介類の養殖に関わる講義をするときに具体的・実践的な話ができる。	奥村 誠一	奥村 誠一 ※	2	後期	1 単位	必修
10 科学英語 I A	【大澤美穂子】 英会話スクール講師としての経験を活かして、科学英語の基本語彙や表現、文法及び科学論文の概要把握を指導するためにグループワークやペアワークを利用して課題解決、発表などの授業を実施する。 【神保 充美】 理系分野において実業界で求められる英語での情報発信および論理的表現能力養成のために実業界で行われている訓練方法を導入している。	大澤美穂子 神保 充美 飛渡 洋	大澤美穂子 ※ 神保 充美 ※ 飛渡 洋	2	前期	1 単位	必修
11 科学英語 I B	【大澤美穂子】 英会話スクール講師としての経験を活かして、科学英語の基本語彙や表現、文法及び科学論文の概要把握を指導するためにグループワークやペアワークを利用して課題解決、発表などの授業を実施する。 【神保 充美】 理系分野において実業界で求められる英語での情報発信および論理的表現能力養成のために実業界で行われている訓練方法を導入している。	大澤美穂子 神保 充美 飛渡 洋	大澤美穂子 ※ 神保 充美 ※ 飛渡 洋	2	後期	1 単位	必修
12 環境科学	国立研究開発法人での環境保全に関する実務経験を活かして、複雑多岐にわたる地球環境問題の本質を体系的に理解できるような授業を行っている。	山口 峰生	山口 峰生 ※	2	後期	2 単位	必修
13 水生動物 行動学	南極で実施したアデリーペンギンとウェッデルアザラシの調査中に撮影した画像は、授業中に学生たちの興味を喚起することに役立っている。	佐藤 克文	佐藤 克文 ※	2	後期	1 単位	選択
14 海産哺乳 動物学	博物館では、海棲哺乳類に対する有機的な理解を、一般の入館者を対象に平易に紹介する努力をしてきた。対象を深く理解し、平易な解説として出力するプロセスを講義内容として示す。	山田 格	山田 格 ※	2	後期	1 単位	選択
15 海洋化学 生態学	海洋生物の情報伝達に用いられる物質が医薬に転用される場合があり、その研究開発経験を踏まえ講義を行う。	神保 充	神保 充 ※	2	後期	1 単位	選択
16 水圏植物 学	企業研究所での水圏および陸圏植物を対象とした室内とフィールド研究に関する実務経験を生かして、水圏植物の特徴を、学生が具体的に理解できるような授業を行っている。	難波 信由	難波 信由 ※	2	前期	1 単位	選択
17 科学英語 II A	【岡村 正愛】 食品企業研究者としてのバイオテクノロジー・味覚生理の研究実務、研究企画・国際共同研究の管理職としての実務経験を活かし授業を実施している。 【松村 清隆】 民間企業、研究所での実務経験を、社会に出た後役立つ英語表現や考え方を授業内容に組み込むことで生かしている。	岡村 正愛 松村 清隆 堀越 彩香 横山 雄彦 古川 史也	岡村 正愛 ※ 松村 清隆 ※ 堀越 彩香 横山 雄彦 古川 史也	3	前期	1 単位	必修
18 プレゼン テーション	学生向けキャリア支援経験と企業向けコンサルティング経験を活かして、時代に求められる人材養成を目指した実践型講義を実施する。	菅野 信弘	菅野 信弘 ※ 田中丸真琴	3	後期	1 単位	必修

実務経験のある教員による授業科目一覧表

[部門：海洋生命科学部 海洋生命科学科]

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験者)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
19 科学英語 ⅡB	【岡村 正愛】 食品企業研究者としてのバイオテクノロジー・味覚生理の研究実務、研究企画・国際共同研究の管理職としての実務経験を活かし授業を実施している。 【松村 清隆】 民間企業、研究所での実務経験を、社会に出た後役立つ英語表現や考え方を授業内容に組み込むことで生かしている。	岡村 正愛 松村 清隆 堀越 彩香 高田健太郎 廣瀬 雅人	岡村 正愛 ※ 松村 清隆 ※ 堀越 彩香 ※ 高田健太郎 ※ 廣瀬 雅人 ※	3	後期	1 単位	必修
20 水圏生態学	漁場調査や種苗生産現場における経験を通じて得た魚類等の生態や多様性、戦略等の情報（映像を含む）を、学生が実感できるように活用している。	朝日田 卓	朝日田 卓 ※	3	前期	2 単位	必修
21 水族増殖学	養鰻業および養殖魚の機能的餌料の開発を通して得た実務経験をもとに、知識のみならず現場の雰囲気や理解できるように、視覚的な資料を積極的に活用している。	千葉 洋明	千葉 洋明 ※	3	前期	2 単位	必修
22 技術者倫理	【朝日田 卓】 魚類の増殖事業や生態調査、環境調査に関わった経験を通じて得た現状認識や問題意識、解決手段などを学生に提示し、グループディスカッション等を通じて考察させている。 【千葉 洋明】 養鰻業および養殖魚の機能的餌料の開発を通して得た実務経験をもとに、科学に対する社会的信用を得るためには、いかに技術者としての倫理観とコンプライアンスが重要であるかを理解させるうえで客観的な視点に立った説明ができる。	菅野 信弘	菅野 信弘 ※ 高橋 明義 ※ 朝日田 卓 ※ 林崎 健一 ※ 千葉 洋明 ※	3	後期	1 単位	必修
23 水族育種学	アワビの養殖プラント会社での業務経験を活かして、魚介類の養殖に関わる講義をするときに具体的・実践的な話ができる。	奥村 誠一	奥村 誠一 ※	3	前期	1 単位	選択
24 食品安全学	温排水の影響が危惧された発電所の前面海域の生態学的調査および物理環境のモニタリングの経験が講義に役立っている。	渡部 終五	渡部 終五 ※	3	後期	1 単位	選択
25 食品微生物学	温排水の影響が危惧された発電所の前面海域の生態学的調査および物理環境のモニタリングの経験が講義に役立っている。	渡部 終五	渡部 終五 ※	3	後期	1 単位	選択
26 海洋生物資源化学	海洋生物から開発された医薬品についての研究開発経験を踏まえて講義している。	神保 充	神保 充 ※	3	前期	1 単位	選択
27 食品機能成分論	近年の保健機能食品は医薬品的な性格を持っており、その作用機構、評価などについて、その研究開発をした経験を踏まえて説明する。	神保 充	神保 充 ※	3	後期	1 単位	選択
28 深海生物学	深海調査船に乗船して深海生物の生態研究をおこない、深海生物飼育の開発を行ってきた経験を活かして授業を行っている。	三宅 裕志	三宅 裕志 ※	3	前期	1 単位	選択
29 水産物流通論	自治体、国立研究所、国際的研究機関に所属していた経験から、地方、国内、国際水産物流通について授業をしている。	宮田 勉	宮田 勉 ※	3	後期	1 単位	選択
30 水産法規	学問的な知見が、行政（国・地方自治体）の政策立案や浜の現場でどう活用されるかを、体験談や現場の写真なども交えてわかりやすく講義する。	牧野 光琢	牧野 光琢 ※	3	前期	1 単位	選択

実務経験のある教員による授業科目一覧表

[部門：海洋生命科学部 海洋生命科学科]

科目名	実務経験の授業への活用方法	科目責任者	科目担当者 (※は実務経験者)	開講 学年	通年 前期 後期	単位数	必修・ 選択等
31 国際海洋政策	水産分野の開発コンサルタントとして、JICAや世界銀行などが実施している海外での開発協力業務に従事しており、その経験から得られた知見を事例として授業を行っている。	寺島 裕晃	寺島 裕晃 ※	3	前期	1 単位	選択
32 環境修復論	<p>【山口 峰生】 国立研究開発法人での環境保全に関する実務経験を活かして、赤潮の発生機構とその対策と課題を体系的に理解できるような授業を行っている。</p> <p>【難波 信由】 企業研究所でのさまざまな生物を対象とした生理・生態学的研究に関する実務経験を活かして、基礎生産者が果たす役割を、学生が具体的に理解できるような授業を行っている。</p> <p>【三宅 裕志】 深海調査船に乗船して深海生物の生態研究をおこない、深海生物飼育の開発を行ってきた経験を活かして授業を行っている。</p> <p>【朝日田 卓】 魚類の増殖事業や生態調査、環境調査に関わった経験を通じて得た現状認識や問題意識、解決手段などを学生に提示し、グループディスカッション等を通じて考察させている。</p>	朝日田 卓	小檜山篤志 山口 峰生 ※ 難波 信由 ※ 山田雄一郎 ※ 三宅 裕志 ※ 朝日田 卓 ※ 林崎 健一	3	後期	1 単位	選択
33 海洋実習	企業研究所でのフィールド調査の実務経験を活かして野外実習を行っている。	難波 信由	難波 信由 ※ 各教員	1~3	通年	1 単位	必修
34 インターンシップ	学生向けキャリア支援経験と企業向けコンサルティング経験を活かして、時代に求められる人材養成を目指した実践型講義を実施する。	奥村 誠一	奥村 誠一 高橋 明義 ※ 田中丸真琴 ※	2~3	通年	1 単位	選択
単位						44 単位	